

## 時事

# 今、なぜ集団的自衛権か？

昨今、集団的自衛権を巡り賛否両論が出ている。この集団的自衛権というものをもう少し分かりやすくしてみたいと思う。

まず、現在の世界的流れからいうと、ソ連邦崩壊に伴い冷戦構造が終結し、9・11テロが起き、世界がアメリカを中心に右傾化した。その後、ロシアの復活、中国の台頭、中東の混沌、EUの拡大、アジアの不安定化、南米の左傾化、米国の揺り戻し、世界的な資源や食糧、環境問題など難題が噴出している。その中で、その後を見据えた新たな再編、枠組みが今後10年以内に出来つつある。日本は日米同盟を機軸に枠組みを考える上では、将来的には対中、対ロ陣営に与すことになるだろう。要するに、米国を中心に北大西洋条約国機構（NATO）のアジア版、アジア・環太平洋条約国機構のようなものを作ろうと模索している。現在、この地域で米国が同盟関係にあるのは主に日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、タイなどである。これを整理・拡大し、総合的な依存関係を構築することにより陣営の明確化、及びアジアの安定化を図ろうとしているのである。これは危機に対する消極的分散と積極的関与という力と数の論理による極大対極多戦略である。日本がこれに参加するには集団的自衛権がネックになる。守ってもらうが、守れないでは参加資格が得られない。

これを、ミクロ例を用いて考えてみたい。

最近、列車の中で女性が暴行されるという事件が起きた。また、ステーキ店の店員らが客の女性を拉致・暴行した。このような公衆の場で起きてはならない横暴が現実には起きているのである。だが、これらの卑劣な行為は未然に防げた可能性がある。前者は助ける者が現れれば防げた。後者は犯罪に加担した者の内、一人でも犯行を止める者が現れれば防げた。だが、残念なことに両事件ではそのような勇気ある者が現れなかった。事件が明るみになっていなければ更に被害者は増え、若しくは更に凄惨な事件に発展していた可能性が高い。逆に今まで救助者や制止者が居たために未然に防がれたこともあっただろう。また、このような犯行を許した空間の提供者は認識の甘さを猛省し、改善と対策を早期に実行しなければならない。

このような理不尽極まりない強大な力を行使されたときに、集団で対抗しようというのが集団的自衛権である。また、誰かが誤った力を行使しようとした時には止める権利が発生するのである。韓国などはアメリカが北朝鮮に攻撃すれば、自国も戦闘に参加しなければならなくなるために真剣に抗議する。しかも、大国のアメリカもそれに配慮せざる得なくなる。要するに攻撃する際にも多国間の調整が必要になる。このような牽制作用が働くのである。現在の日本

の場合、対等的な相互補完関係がないために追随するばかりになる。

まさに、列車の中で危害を加えられる女性を助けなかった乗客が今の日本の状態なのである。そして、これに対して「おかしい」という意見を述べる者が世界常識なのである。このようなミクロ論と国家的なマクロ論を混同すべきではないという声もあるが、マクロの派生はミクロに影響を及ぼし、ミクロの結集がマクロに作用するのである。よって、世界の潮流や変化についていけなければ、国家としては衰退する。特に日本は資源や食糧の輸入依存国である。鋭敏な感覚と積極的関与がなければ、国家の発展、国民生活の安定は図れない。そして何よりもこのような卑劣な犯行に立ち向かう気概が生まれえない理由は、マクロ的な国家の姿勢にある。弱い者を助ける。若しくはみんなを守る。地域の自警団も同じ発想である。利益や正義は其々の価値観に基づく。理由は単純でよい。

時代の流れや要請についていけなければ、機会は危機となる。

2007.5.22